

昔から男性には大発明家が多く、女性には少い事実がある。
この事実は生活環境からくるといわれているが、この仮説はこれから延べる仮説により切りくずされることになった。
これからは、この二つの仮説のどちらが正しそうかを諸学の立場からしらべていく時代になると考えられる。

ちえ

275

VOL.12 NO.10 JUN.1981

男性型発想と女性型発想のちがい

<なぜ男性に大発明家や大作曲家がいて女性にはそれがいないのか？>

江崎 道彦

これからお話しするのは、私が仮説設定に基いて、短い期間ではあるがいろいろ観察したことの報告です。例外的なケースもありますが、とにかく結果が合うので、なにか組織工学、創造工学、心理学、行動科学を人間の体や脳の構造からの研究の糸口になるのではないかと思ひ、とりあえずいままでの観察結果とその仮説を報告する次第です。

1. 左右の脳の役割のちがいを簡単に知ることのできる実験

私たちは、否定をしたり感心をしたときには首（頭）を左右に振りますね。一般にどちらへ先に振り始めるか御存知ですか？右から振り出すばあいと左から振り出すばあいの二つがあり得るはずですが。

さて、ここで私が皆さんにつきの質問をしたといたしましょう。皆さんはこの質問に対し「いいえ」といひながら、ごく自然に否定の首振りをしてみて下さい。

(ケース 1)

「あなたはいま100万円おもちですか？」→「いいえ」

「あなたは人を殺したことがありますか？」→「いいえ」

どちらから首を振りましたか？

(ケース 2)

つぎに、気持のわるいことをいわれたか、思ったときの気分になって、強く一回だけ「いやっ！」とか「いやん！」といひながら、できれば身ぶるいをしながら、否定の首振りをしてみて下さい。首を振る方向がはっきりしないようでしたら、右へ振るのを自然に感じるのか、左へ振るのが自然に感じるか比較してみてください。

冷房がききすぎて「おお寒い！」といひながら身ぶるいするときも、「うれしいっ！」と感激しながら首を振るときもこの(ケース 2)の一つです。さてこのばあいはどちらから首を振られましたか？

大半の人は(ケース 1)については左へ、(ケース 2)については右側へ先に首を振りはじめられたはずですが私はこの現象をつぎのように解釈してみました。

(ケース 1)は、理論もしくはことばによる筋道をたてた上で否定をしているのであり、(ケース 2)は感覚的な内容をことばに直しながら首を振っています。すなわち、理論もしくはことばが先に出てくるばあいはその情報を理論・言語の脳である左の脳より、イメージ・体験の脳である右の脳へ移し、なんらかのイメージと対比→判断をするのに対し、イメージの方が先に出てくるばあいは、その情報を右の脳から左の脳へ移して、ことばに

よる分類→判断をしているのではないかと考えます（このような人をひとまず A型としておきます）。

以上が多くの人に当てはまる観察結果であります、この結果を基準としたばあいにはそれとちがうパターンも報告しておかなければなりません。

(1) 女性の方の中には（ケース 1）のばあいにも右側からのみ先に振られる方が1/3—1/4 おられるようです。そして、これらの方は女性の中でも理論型の人より感覚型の人に多いようです（このような人を B型と呼ぶことにします）。

(2) 上記の（ケース 1）と（ケース 2）と全く逆の方向から首の振り方をされる人が男女ともにおられます（これを C型とします）。このような人は全体の2—4% ぐらい存在するように思います。

(3) B型と全く逆の首の振り方をされる方がいます。いままでのところ、このパターンの人は女性にしかみつかっていません（この型を D型ということにします）。非常にまれな型です。

以上の観察結果は、右きき、左ききの人との相関があるように思えますが、この相関関係はほとんどないようです。

2. 男性は女性を自分のどちら側に置いた方が話しやすいでしょうか？

まず、あなたが男性のばあい、じっくり女性と話をするとして、女性に自分の左側に来てもらった方が気分的に話しやすいか、右側に来てもらった方がいいかどちらでしょうか？

多分、多くの方は女性に自分の左側に来てもらった方が話がしやすいはずです。

女性の側からみたらどうでしょうか？このばあいは逆に男性に自分の右側に座ってもらった方が、ほとんどのばあい、気分的に楽のはずです。

すなわち、男性と女性は傾向が逆で、男が右、女が左の組合せが一般的な傾向です。

もう一つ、男性の方は女性の方にきいてみて下さい。「あなたは愛のささやきを右の耳にしてみようのと左の耳にしてみようのとどちらがじっくり感じますか？」と。答は「右の耳」のはずです。

また新しくて古い事実があります。女性にきいてみて下さい。「あなたはキスされたとき右の首すじの方が感じやすいか、それとも左の方がいいと思いますか？」と。これも大抵のばあいは「右」のはずです。

さて、あなたが男性であるとしましよう。御自分の一方の手で、御自分の右と左の首すじをなでてみて下さい。どちらの方がなでられているという感じが強いですか？ほんの少しの「差」があるはず。そして、答はたいていの方は「左」だと思えます。

この現象をさらにくわしく観察してみますとつぎのような結果がでてきます。

(1) 感じやすい方の首すじは他の側より少し温度が低いようです。

(2) 女性のばあい、2才の子どもでもこの傾向がみられます。すなわち、くすぐったいという反応が右の首すじの方が早いことが認められます。

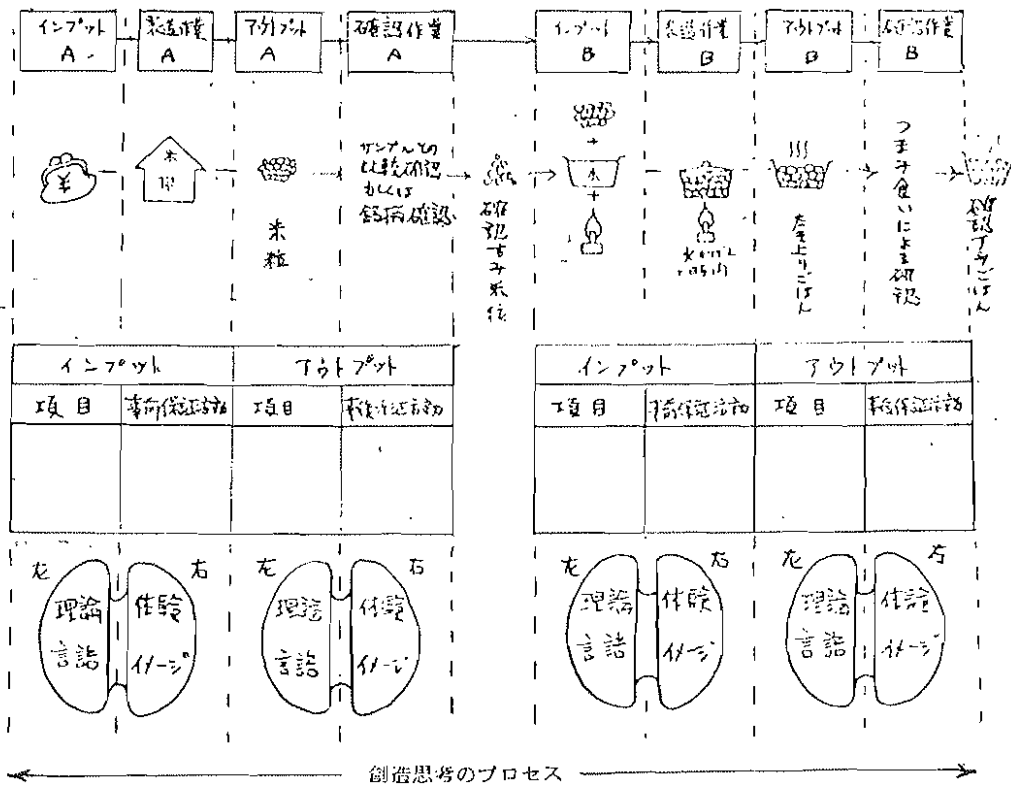
(3) 人により感じやすさの差があると同時に、同じ人でも朝、昼、晩で、感じやすさと、感じる側がときどき変化するばあいがあるようです。

(4) しかし、これらにも多数のばあいを基準とすると下記のような例外があります。すなわち、前章の説明の C型と D型の方は、ほとんどの方が上記の観察結果と逆の感じ方を示されるようです。

3. 味見（あじみ）の選択機能をもっていると思われる脳の部分について。

皆さん、もう一度実験してみてください。皆さんはなにが味見をするときに、「えーっと、これは甘すぎるかな？からすぎたかな？」といいながら舌つづみすることがありますね。そのとき皆さんは少し首を上の方に向けて「えーっと……」とやりますね。このとき皆さんにとって、頭を左の方へ傾けるか右の方へ傾けるか、どちらが自然と感じられますか？ 答は「右の方」のはずです。

これからすると、脳の中の味見の機能は右下後、すなわち耳の後あたりにあるように思われます。これを、「ちえ」257号のステップリスト・マネジメントの方法のインプットとアウトプットの関係を示す四つの箱に対応させてみると第1図のようによく一致します。



第1図 インプットとアウトプットのパターン認識のイメージ

右端の「つまみぐいをして味見をする」箱の該当するワク組、~~左脳~~^右の脳の下の方の位置に対応できます。

さて、以上の事実からすると、女性は右の下の方の脳が発達していて味見の選択の機能がすぐれていることの説明にもなりそうです。そして「味見をする奥さんは御主人の味に対する好みを知っていなければならないという保証条件」となる「思いやり」から発想するのが得意ということの説明にもなります。

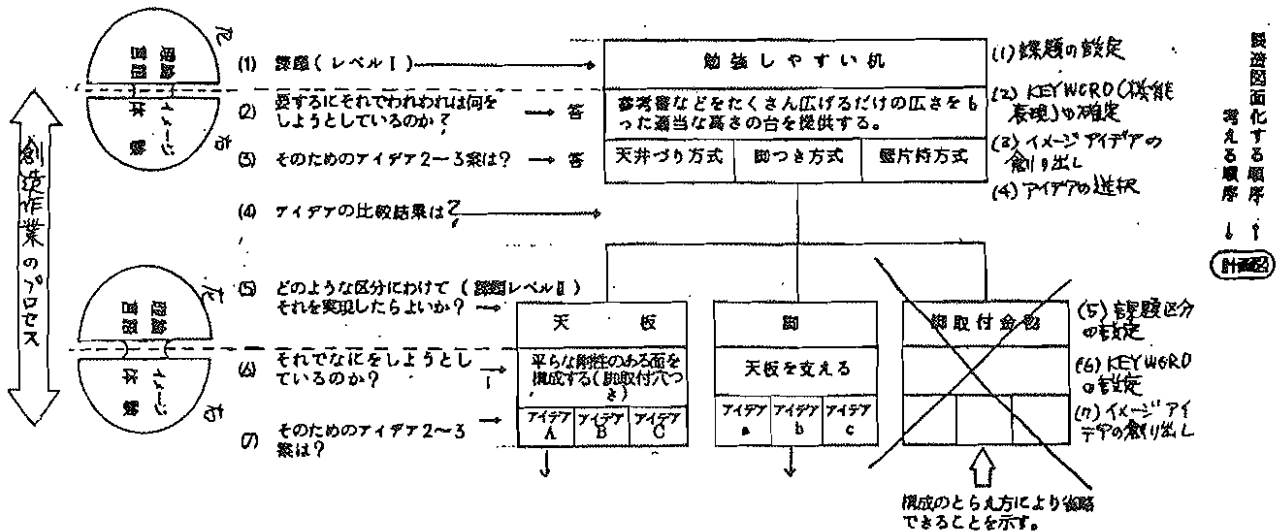
3. 男性型発想と女性型発想のちがい

夫婦で朝食をしていましてしょう。そのとき御主人がごはんをたべながら「この米どこで買って来たの？」ときいたとします。すると奥さんはほとんどのばあい「あら、いけなかったかしら？」とききかえます。このとき男性の考えていることは、ごはんがおいしいばあいでも、まずいばあいでも、まず分析的にどこの店で、どの銘柄のものを買ったのかをきこうとしているのに対し、女性はごはんがおいしいかまずいかをきかない先に、味

見の仕方、作り方が悪かったかしらと、まず想って答えているということになります。

人間の脳には左右の2つの半球があります。そして、この2つの脳は会話し合っているといわれています。会話があるからには、どちらかの側から声がかけられるわけで、そうでなければ会話ははじまらないのは自明のことです。これを第1図のステップリストのワクと左右の脳の対比図にあてはめ、さらに、これに上記の御主人の発想と奥さんの発想を重ねると、どうも男性の発想は左の脳からスタートするのに対し、女性型の発想は右の脳からスタートしているのではないかとおぼえてきます。昔から女性には大発明家と大作曲家が非常に少ないといわれています（キューリー夫人は大発見家）。

上記の説明を、さらに第2図の、目的の対象物件の安を作るためのFBSブロック・ダイアグラムとその左右の脳との対比図にあてはめてみると、どうもFBSテクニックのパターンがここでいう男性型の発想パターンに相当するようおぼえてきます。



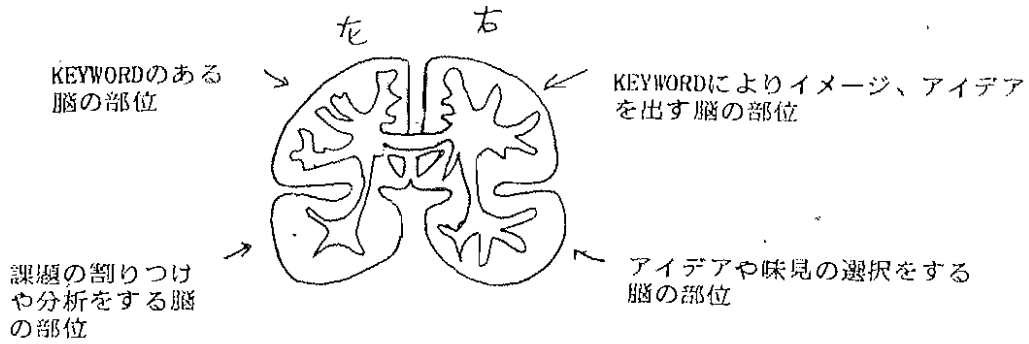
第2図 「勉強しやすい机」のFBSダイアグラム
(FBS:FUNCTION BREAKDOWN STRUCTURE)

したがって、新しいものを効率的に創造しようとするときには、男性も女性も、FBS ブロック・ダイアグラムの考え方を意識して、いつも課題から出発して考えるようにしさえすれば、相当な創造力の向上が期待できるという原理の説明がこれでできるようにおぼえます。(注) この説明を女性にして、男性型発想法と女性型発想法とはじめからきめてかかってもらっては困るとおしかりを受けたことがあります。したがって、ここでのこの区分は現在の社会体制の中にあって、どちらかという男性に多い発想のパターン、女性に多い発想のパターンのそれぞれに、憶えやすい仮称をつけさせていただいていると解釈していただきたいと考えています。

5・課題の分析やことばを選択する機能をもっている脳の部位についての仮説的見解。

以上のような見方をしていると、またつぎのような仮説にたどりつきます。すなわち、右の脳の下の方に「味見の選択機能」があるならば、左の脳の下の方にもなんらかの選択機能があるのではないかと。私はいろいろ考えた結果、つぎのような観点をもつに至っています。

脳の断面の写真をみると第3図のようになっています。この断面図と、第2図のFBSブロック・ダイアグラムを対比してみますと、左の脳の下部はアイデアの比較選択の機能のステップに対比できるので、脳の右側の下は



第3図

課題の区分の^設設定に対比できると考えられます。したがって、左の脳の下方には、課題の分析、割つけ、選択、ひいては言語を選んでいく機能をもっているのではないかと考えられます。このことは、私たちがことばを選んだり考えたりするときには、どちらかという左の脳の下の方に力を入れている感じをもっていることの実事とも一致します。また、この事実は、私たちが文章を書くときに頭を右に傾ける方がごく自然か、左に傾けた方が自然かを比較するとどうも左の方が自然らしいこととも一致します。

これらのことから、前章の、女性に対する右の耳からの愛のささやきのメカニズムもつぎのように解釈できます。右の耳よりの情報は、優位の交叉神経により、左の脳に強く、もしくは早く達するので、女性の頭の中には男性型のことばからはじまる発想のパターンが形成され、それが理解しやすいメカニズムができ上る。そしてさらに、このメカニズムを発展させると、男性同志のばあいでも、ことばによる相手の説得は、説得される人の右側からする方がわかってもらいやすいということがいえます。

6. 男性は男性型の発想をしやすく、女性は女性型の発想をしやすいもう二つの事実。

(1) 大変具体的な事実で申しわけありませんが、男性の^{姿勢}男根は一般に少し左の方を向いています。そうするとつぎの仮説が生れてきます。すなわち、女性の^{姿勢}尻はまっすぐではなくどちらかに斜めになっているのではなからうか？そこでこの仮説に基づいて皆さんに調査していただいたところ、やはり女性のそれは上の方からみて右の方向にくぼんでいるようです。(注) 最近あたらしい例外を発見しました。首の振り方のC型の人に男根が右を向いている人を二人みつけました。そして、この二人の人は、どちらかという男性の中でも女性の気持がよく読みとれるタイプの男性でした。

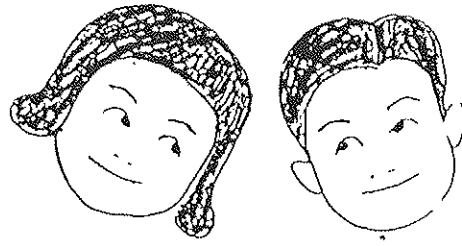
こんな体型上のちがいが、男性は男性型発想をしやすく、女性は女性型発想をしやすくする原因ではないかとも考えられるわけです。ただし、女性にも偉大な人が多くみられます。このことから、人は意識と訓練を自らにしさえすれば、左の脳からでも右の脳からでも思考をスタートさせることができると考えられるのです。

(2) もう一つ、実用的でおもしろい事実の発見があります。それは、男と女の「色目 (いろめ)」というのか、おたがいに親しみを感じる目の方向が逆になっている事実です。

うまくその比較ができていませんが、この色目の方向のちがいを第4図に示してみました。皆さんも実験してみてください。奥さんに右上目づかいで頭を少しこちらに傾けて自分の方を見てもらおうと、奥さんがうんと可愛くみえるはずですよ。この実験はいろいろな人の前でやったり、やってみてもらいましたが、まちがいなくその傾向があるようです。



それぞれ親しみを感じやすい
目の方向



まあね、といった感じの目の方向

第4図 色目の方向の比較

左の方がより親しみをおたがいに
感じる

7. まとめ

以上が、私がステップリストのワクと、FBS ブロックダイヤグラムに自然の姿をはめ込んで観察してみて発見したことの報告です。したがって、ステップリストの方法、FBSの方法はNM法と連結して、これからの行動科学、創造工学、管理工学の世界と思考法を結びつけていく一つのツールになることと思っています。

皆さん、私がここに発表したことをもとにしてもっといろいろ観察しますと、まだまだおもしろいことがみつかるとも知れません。これらのことに関し、皆さんの発見された事実、例外に関して、荒けずりのデータのままです。結構ですから「ちえ」誌上にでも発表していただきたいと思います。そうすれば、逆に、それらのメカニズムを積極的に利用するテクニックを開発することができ、創造性の開発にも役立つことができるだろうと思うのです。皆さんの御研究を期待してこの中間報告を終わります。

えさき みちひこ 川崎重工業株式会社勤務

以上のことから創造的マネジメントはまさしく落ちのり
課題の切り付けから始まるといえます。

従って、この表の左の半面をよめば女性も本発明家
がたしとん出してくるようになるかと考えられます。

「ちえ」発行責任者/海辺和彦 編集人「ちえの会同人」

発行所/ (株) 創工・能力開発室 03-407-7966 (代)
150 東京都渋谷区神宮前5-12-14

● 頭の振り方や傾け方から創造思考の加速はできないだろうか？

江崎通彦

「ちえ」275号で、男性型発想と女性型発想のちがいがどのようにして起るかの、仮説に基いた研究結果を報告しました。ここでは、「ちえ」267号で発表した「KEY WORD の方法」を仮説の前提として、新しく発見できたもう2つ3つの現象の追加報告を致します。そして、これらの仮説的なメカニズムを使って創造思考の加速はできないものだろうか？という提言を試みてみたいと思います。皆さまの御批判をいただければ幸いです。

1 KEY WORD の方法は創造工学を大脳生理学、行動科学の分野に結びつける糸口を開く

皆さんは、ものごとを理解したときに頭をタテに振られますね。このとき、まず頭を下の方へ先に振られますか、上の方へ先に振られますか？どちらの方へ先に振られますか？少しやってみて下さい。

答は、下の方へ振りはじめるときと、上の方へ振りはじめるときと、2つのばあいがあります。すなわち、下の方へ先に振りはじめるときは、目的がわかったときで、上の方へ先に振りはじめるときは、意味や手段がわかったときのようなのです。

また、私たちは、神さまにお祈りするときも大体同じ頭の傾け方をとっているようです。すなわち、私たちは「神さま、私の目的は何でしょうか？」といったお祈りをするときには頭を下にさげ、「神さま、私はどうしたらいいのでしょうか？」といった、手段を求めてお祈りをするときには頭を上にあげている、ということをごく自然に感じています。

よくわかりました



うーん、なるほど



第1図 頭を下へ先に振るばあいと
上へ先に振るばあいの対比図

私たちは、このようにいつも、理解しようとしていることを、目的もしくは手段の関係で瞬時に判断して、この頭の振り方を無意識にしているようです。いいかえると、それを目的として頭の中へ入れるため、それを手段として頭の中へ入れるために頭を振っているように思われます。(わかったということを手伝うに伝えるためではありません)

さて、ここでこの事実をみとめたとしますと、つぎのような質問が生れます。「目的がわかったときは頭を下の方へ先に振り出すし、手段とか意味がわかったときは上の方へ先に振り出す・・・それでは・・・その境界面はどこにあるのだろうか？それはどんな内容レベルのものだろうか？」

「ちえ」267号に発表した「KEY WORD の方法」は、その表現レベルを紙の上に確定する方法です。KEY WORD を理解するときが 頭を下に先に振り出す一番下のレベルであり、また、自分で KEY WORD を発見したときは一瞬、頭をどちらにも振らない現象が起ります。これは、つぎのようなことから説明できます。

私たちは、何か大切なことをあとから思い出して「あっしまった！」とすることがあります。このときは、その KEY POINT (KEY WORD のイメージ・ポイントと考えられる) を発見したわけで、頭は一瞬水平の位置に固定したままです。

もう一つの例をあげてみましょう。つぎの図のように、人と話をしているときに、何か KEY となる 答が出てきたときに「あっ、それだ！それが答だ！」といいながら、思わず頭を前の方に突き出すことがあります。これが、KEY WORD が目的と手段のちょうど中間に位置する証拠のように思われます。しかし、私たちは KEY WORD を理解するときは、さきに述べたように頭を下へ先に振っているようです。すなわち「あなたとすべきことはそれですね」「はい、そうです」といって頭を下へ振ります。また、「あなたがまずしなければならない当面の手段はこれですね」「はい、そうです」といったばあいでも頭を先に下へ振り出します。このことから、自分が置かれた立場により、KEY WORD のレベルが変化することも理解できます。



第2図 「あっ、それだ！」という答が出てきたときは頭を振らない

ここで少々補足的な説明になりますが、先の「ちえ」267号で発表した「KEY WORD の方法」を展開していきますと、表現の中央あたりにみつける KEY WORD の他に、その目的と手段のブロック・ダイアグラムの一番下の表現に、まず、それさえすれば KEY WORD の表現に到る筋道がひらけるといふ表現が出てくる場合があります。これが上記の「当面の手段はこれですね」といふ表現に相当します。これを KEY WORD の方法の展開では「ENTRANCE KEY WORD」と名づけて使っています。

2 上記の結果を応用してみることはできないものだろうか？

ここでは、その提案の例として (1) 人の心の一部を読みとるため、(2) 創造発想の入口となる KEY WORD の表現をとらえ、さらにその発想を発展させるための、段階的に意識すべき脳の部位の意識のさせ方について述べてみたいと思います。

(1) 人の心の一部を読みとるため。

みなさん、みなさんは職場で、朝、仲間に出会ったとき頭を少しタテに振りながら「オス」といってあいさつをします。このとき相手の頭の振り方をよくみると、相手がこちらを手段の位置にしているか、一段上においてあなたのために働きますよという意味の、目的の位置にしているかを観察することができます。すなわち、一応はあいさつですから頭を下にさげますが、どちらの方向に力を入れて頭を振っているか、もしくは早く動かしているか、を、御自分を含めて観察してみてください。

多くのばあい、こちらを上に見ているばあいは、下へ振るときに早く、もしくは力強く、こちらを下に見ているばあいは、頭を下の方から上の方へ振りあげるときに早く、もしくは力強く振っていることにお気づきになるはずです。また、本当の仲間意識をもって当方を見ているときには、下の方へ振るときと上の方へ振るときも、力の入れ方はほぼ同じように振っています。

さて、いまここに、もう少し観察をつづける必要のある仮説的な見解もあります。

朝、女の子がこちらに向かって「おはよう」といいながらあいさつしてくれることがあります。このとき、その女の子が左右のどちらに少し頭を傾けてあいさつしているかを観察してみます。もちろん、どちらにも頭を傾けない女の子もいますが、どうも当方に好意をもっている女の子は頭を右に傾けながらあいさつをしているようですし、「あの方は上司だからあいさつをしておかねば」と思いながらあいさつをしていると思われる女の子は左の方に傾けるように感じます。これは、前者のはあい、先の「ちえ」275号の中で述べた右の脳の下の方にある「アイデアや味見の選択をする脳の部分」に力を入れているようにみえますし、また、後者は、左の理論脳の下の方の部分に力を入れているようにみることができます（この件に関しては、どちらの首すじに力を入れているかという観察をする方が適切かもしれません）。

(2) 創造発想の入口となる KEY WORD の表現を、紙きれを使わずにとらえ、さらにその思考を発展させるため。

まず、頭を前の方に垂れ、できれば額に両手をあて、頭の前の方に意識を集中して「目的は何か？」の質問を自分にして答を出します。つぎに、頭を水平に近いところの、やや前倒しの位置に戻し、目を半眼もしくはつぶり、両手を額にあて「要するにそれは何をするのか？」の自問をくりかえします。そして、最も適切な KEY WORD の表現をさがします。KEY WORD がみつかったならばひとまず気分を楽にします。そして、しばらくたってから、NM 法の下記の質問を、頭を水平にして少し右の方に傾け、右脳の中心部あたりに意識を集中しながら、「たとえば〇〇のように？」(QUESTION ANALOGY) 「たとえば〇〇のときのように？」(同) 「そこでは何が起っていたか？」(QUESTION BACKGROUND) 「そこで、何が起りさえすればいいのか？」(KEY QUESTION) の質問のステップを段階的にすすめていきます。これらはいずれもイメージ思考の分野ですから右脳を使うことを意識しつつけることはいうまでもありません。途中でポンチ絵のカードを補助に使うことも必要です。そして、それらのイメージが相当量でてきたら、つぎに頭を今度は左の方へ少し傾け、左脳の下の方部分を意識しながら（できればその脳の部分に手をあてて）「そのことは目的に対し組合せ利用できないか？」(QUESTION CONCEPT) の質問をくりかえします（このとき先のポンチ絵のカードをマトリックス型にまとめてながめると効果があがるわけです）。

その結果を、今度はその CONCEPT をまとめたポンチ絵に書いてみます。このとき使う脳は右脳ですから頭を少し右に傾けて絵を書くと効率がよくくなります。そして、アイデアの選択は右脳の後下方を使うように、頭を少し後右方向に倒し意識してやるとよい選択ができます。

以上が、「ちえ」268号の FBSテクニックを使うときの頭の傾け方と意識の集中のルールとなります。

さて、つぎに「それを実現するためにはどんな時系列的な筋書きと構成要素の組合せが必要か」を落ちなくきめる必要が出てきます。このときは構成化が必要になりますので「ちえ」275号で述べた仮説にもとづき左脳下側のあたりを意識して考えをまとめていくわけです。（注1）

私たちは、文章など筋書きを考えると、よく、手を左頭のうしろに当てる姿勢をするのは、まさにこのメカニズムを無意識にやっているのだといえます。（イメージを探す「えーっと、どんなことだったっけ？」というときには右頭のうしろに手を当てた姿勢をとっています）。

（注1）この筋道づくりが非常にこみ入っていて、どこから手をつけていいかわからぬときに、「ちえ」257号のステップリスト・マネジメントの方法が非常に強力な武器になります。

3 さらに、イメージ思考、論理思考を加速させるには ——

以上のことが、脳の前後、左右のはたらきを加速するため、私たちが無意識にやっていることを、「ちえ」275号と前章で説明した仮説を使って顕在化し、今度は、それらを意識的に使えば、創造思考のステップバイステップの内容の充実と加速がはかれるのではないかという提案です。この章では、これらのことを、さらにリラックスしながら発展的に利用するための2〜3の「ちえ」についての補足をしておきます。

(1) 寝ているあいだにイメージ思考をするために

寝ているあいだにイメージ思考をするには、まず寝る前にテーマまたは KEY WORD をとらえておき、腹ばいになって右の脳を下にして寝るとよいようです。こうすれば左を向こうと思っても寝がえりをしないかぎり方向は変わりません。そして、このようにすると、左の脳を下にして寝たときにくらべてたしかにイメージフルな気分になります。中山先生によると、禅僧の教えの中にも、右の頭を下にして寝るといふのがあるそうですし、たしか、お釈迦さまの寝姿も右を下にして寝ておられる姿が多いようです。

(2) 寝ているあいだに論理構成を考えるために

上記と反対に、寝ているあいだに仕事の割付区分や文章の目次を考えつこうとするときには左の脳を下にして寝るのがよいようです。

4 ものごとを理解するとき、「なぜ」という質問の仕方をすると解りやすいが、創造思考の世界では「なぜ」という質問を使うと、ときどき混乱の原因となることがある。この現象はどのようにして起るか？

つぎのような2つのタイプの質問があったとしましょう。

(1) 皆さんは、鏡を見られたときに自分の姿が左右逆に映ることを知っておられますね。ところが、上下は逆に映りません。なぜでしょうか？

(2) 皆さんは、鏡を見られたときに自分の姿が左右逆に映ることを知っておられますね。ところが、上下は逆に映りません。これはどのようにしてそうなるのでしょうか？（または、どのような法則を成り立たせるために、そのようになるのでしょうか？）。

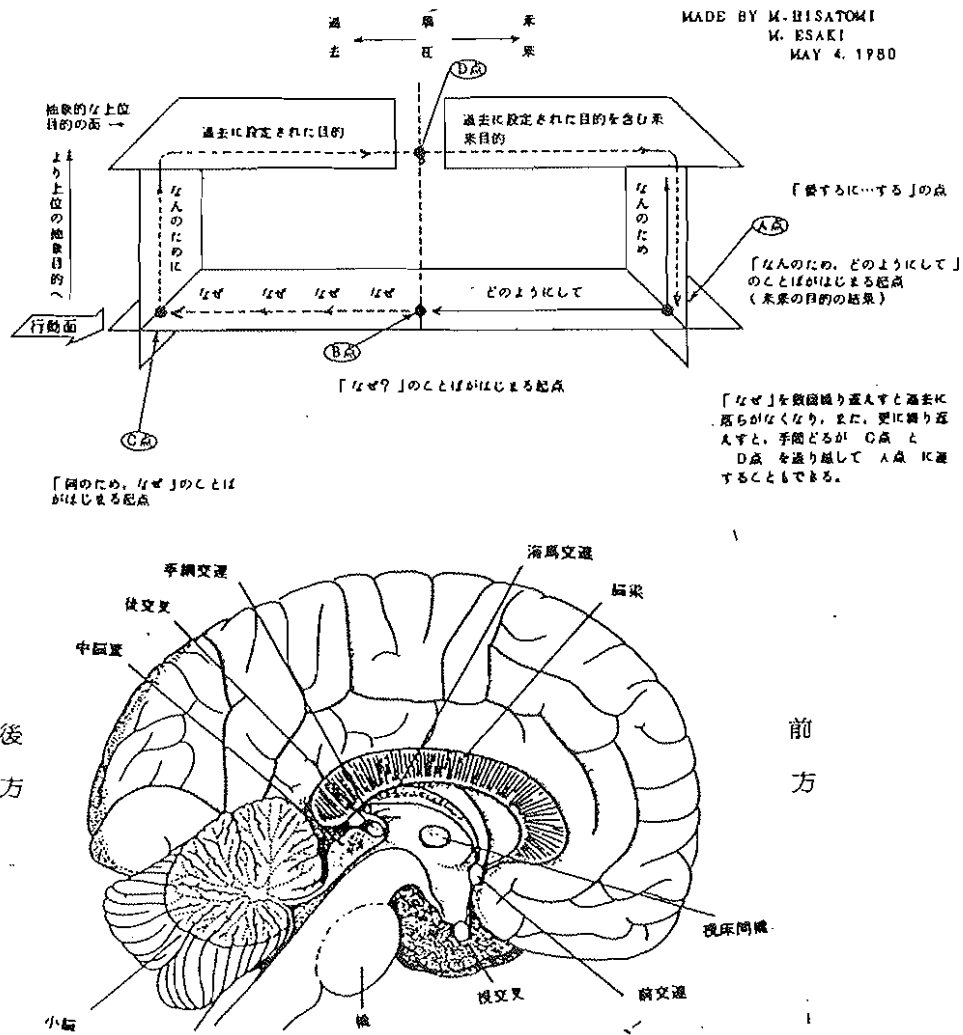
この2つの質問を比較すると、後者の質問の方がずっと論理を引き出しやすく、質問に対する答もずっと気持ちの中に起ってくることを感じます。

このことから、仮説設定のメカニズムを成り立たせるためには、後者の質問のパターンの方がうんと手っとり早いことに気がつきます。すなわち、前者の質問のパターンから出発すると、今まで知っていた知識からだけの説明に努力が集中されるのに対し、後者の質問のパターンからの出発は、従来の知識のみにはとらわれないところからも思考がはじまること、すなわち、仮説を探しもとめるところからはじめることができることに気がつきます。これが、先の「ちえ」267号の「KEY WORDの方法」で「なぜ」の代わりに「何のため、どのようにして」という質問を創造思考の前にもってくるようにすると潜在的な知識（無意識の中にあるちえ）を引き出すことが容易になるといっている説明になると思います。

5 「なぜ」と「何のために、どのようにして」の微妙な使いわけのイメージ図と、脳の前後の断面図の対比から引き出されるもの

まず、「ちえ」267号に載せた「なぜ」と「何のために、どのようにして」の微妙な使いわけイメージ図

と、脳の前後の断面図を第3図のように対比してみましょう。(注2)



© サイエンス・イラストレーテッド 4 「脳」 (日本経済新聞社より)

第3図 「なぜ」と「何のために、どのようにして」の使いわけイメージ図と脳の前後方向断面図の対比

この図からつぎのような仮説が生まれます。

- (1) 「何のために」という概念は頭の前の方に入っているようであり、「なぜ」という概念は頭の後の方に入っている。その証拠に、われわれが「なぜだろうか？」と考えるときにはどちらかという頭を少し上の方へ上げて考える姿勢をとるのに対し、「何のためだろうか？」と考えるときは頭を少し前に倒して考える姿勢が多いことに気がつく。
- (2) したがって、この現象から、「なぜ」と「何のために、どのようにして」の微妙な使いわけのイメージ図は第3図のように脳の前後の役割に対比できるのではないかという仮説が生まれる。
- (3) そこで、さらにこの仮説を応用してみると、つぎのような創造性思考を要求するときに必要な頭の姿勢と、

創造した結果を人にわかりやすく説明するための「なぜ、そうなるか」の説明を考え出すときに必要な頭の姿勢がちがうことの説明ができる。すなわち、

(a) 私たちは、仮説設定を思いつくまでは、無意識に頭を前の方に倒して考えている。KJ 法や NM 法 のはあい仮説にハッと気がついたり、カードが語りかけてくるのを感じるときの姿勢は、カードをタタミの上にはらまきこれを上からながめているので、頭がやや前の方に倒れている姿勢をとっている。

(b) 仮説設定が終って、その仮説がどうもよくあいそうだという体験を何度かつづけたあと、それを他の人にどのように説明しようかと考え、それを思いつくときは、頭を水平にして歩いているとき、または上を向いて寝そべっているときである。

これは、左右の脳を、頭の中にある脳梁の水平もしくは後に少し曲った部分で橋渡しにして、左右の脳が互にはたらいて考えつくのであろうと思われる。

(注2) 「なぜ」と「何のために、どのようにして」の微妙な使いわけの図は、はじめ脳の断面など全く見ずに、久富真氏 (川崎重工業勤務) と作ったのですが、最近、ふと思いついて上記のように対比してみたら、あまりにも類似しているので驚いた次第です。この対比図から、また新しい発見が出てくる可能性があります。

大脳生理にお詳しい方、大脳の解剖をやっておられる方と一度お話しをしたく思っています。

えさき みちひこ (川崎重工業勤務)
エンジニア

「ちえ」275号「男性型発想と女性型発想のちがい」の訂正

	誤	正
/ ページ3行目	江崎道彦	江崎通彦
3 9	・・・箱の該当するワク組、 および対応する左脳の下	・・・箱の該当するワク組は 右脳の下
5 /	課題の区分説定に	課題の区分設定に

.....
ちえの会・スケジュール
.....

◎9/28 月 18:30-20:30 神宮前区民会館 (原宿) / 1000円
大成道路 (株) 寺島理事

◎10/14水 同上 同上 (講演者未定)

◎11/18 ◎12/11 雑談会

※いずれも、中山先生がご出席されます。お問合せは 創工/03-407-7966

※NM法公開セミナー 10/13~15 千代田研修センター 講師:中山正和先生、保坂栄之介
お問合せ 創工:03-400-7072

[ちえ] 発行責任者/海辺和彦 編集人/「ちえの会」同人 発行所/(株)創工・能力開発室
東京都渋谷区神宮前 5・12・14 〒150 電 (03) 407・7966 400・7072

認識と発想のメカニズムを探るための

色目、流し目の研究中に発見した奇妙な現象の話題

江崎通彦

「ちえ」275号で、「なぜ大発明家は男性側に多く女性側に少ないか」について考察を加えましたが、^{そこで}この仮説の説明を、日常何気なく男性と女性がしている思考のスタート・パターンの癖のちがいをから行ってみてもいいわけですよ。

一般に新しいもののイメージを創造するときの思考順序は、まず第1番目に、何についてのイメージ作りをするのか、というテーマ^{課題}があり、2番目には、そのキーワードをとらえ（「ちえ」267号）、3番目には、キーワードにもとづく各種のイメージを考え出し（NM法）、4番目には、イメージを選択する。そして5番目には、選択したイメージを成り立たせるためのサブテーマをとらえる。6番目以降は、そのサブテーマそれぞれに対するキーワードをとらえ、それから上記3番目以降のステップをくりかえす、ということをして「FBSテクニック」を使って説明しました。そして、上記の1番目と2番目の内容は左脳の役割に、3番目と4番目は右脳の役割にそれぞれ対応するという仮説をたてました。

男性と女性の日常の会話パターンには、男性はテーマ構成または分析構成から思考をスタートさせるくせがあり、女性はイメージの選択区分（好ききらい）より思考をスタートさせるくせがあります。これらを、上記の、新しいもののイメージを創造するときの思考順序に対比すると、男性は思考を左脳よりスタートするくせがあり、女性は右脳よりスタートするくせがあることになります。したがって、発明家は男性に多く女性には少ないということになるのではないかと、というのが「ちえ」275号の仮説的結論でした。

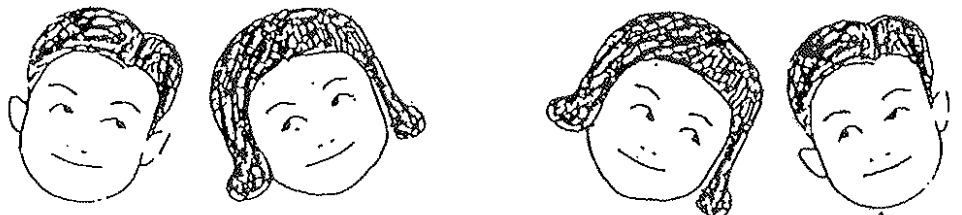
この説明より、創造的なイメージ作りをするためには、左脳から思考をスタートさせるようにしさえすればよく、さらにそれを意識的に進めるには、男性でも女性でも、思考をテーマ（課題）もしくはテーマ区分よりスタートさせさえすればよく、FBSテクニックの理解は、そのための実用的な手順を身につけることになると説明しました。また同時に、「ちえ」275号では、この男性と女性の思考のスターティングパターンのちがいがどのような体の中のメカニズムのちがいをから起ってくるのであろうかについて観察結果のいくつかを報告しました。

今回のレポートでは、その観察結果の中の一つ、男性と女性では色目、流し目の方向が逆になっているということについて、その後気がついた奇妙な現象の報告をします。

まず、前回のレポート「ちえ」275号の該当部分をもう一度述べておきます。

＊実用的でおもしろい発見があります。それは、男と女の「色目（いろめ）」というのか おたがいに親しみを感じる目の方向が逆になっている事実です。写真ではありませんので、うまくその比較による差が読みとれませんが、このちがいは第1図に示したようなものです。

第1図 色目の方向の比較



左の方がより親しみをおたがいに感じる

それぞれ親しみを感じやすい目の方向

まあね、といった感じの目の方向

皆さんも実験してみてください。すなわち、奥さんが彼女に右上目づかいで頭をすこしこちらに傾けてもらって下さい。そうすると奥さんや彼女がうんと可愛く見えます。

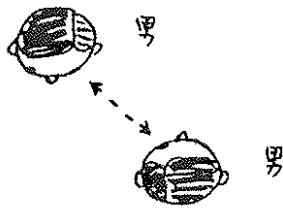
実験はいろいろな人にやったりやらせたりしましたが、まちがいをなくその傾向がみとめられました。

以下がその後発見した奇妙な現象ということですが、それは、最後に説明する鏡の中の像の色目の方向が反身に出てくることについてです。これは、われわれの認識のメカニズムを解明する糸口になるのではないかと思われるようなものです。

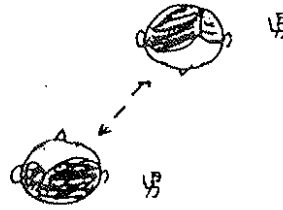
上記の現象の実用上での応用

(1) 男性同志が話をするときの新しいおたがいに感じる位置

男性同志二人で下の図のように座って相手の目を見る実験をしてみてください。第2図の位置の方が親しさを感じるはずです。



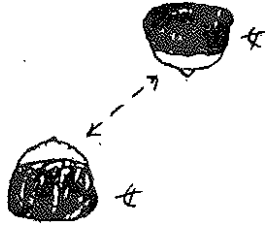
第2図 おたがいに親しさを感じる相互位置



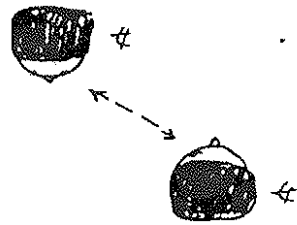
第3図 左にくらべ、おたがいににらみあっているような感じになる。また第2図にくらべ、おたがいの距離を遠く感じる。

(2) 女性同志が話をするときおたがいに親しさを感じる位置

女性の方はつぎのような関係で比較実験をしてみてください。

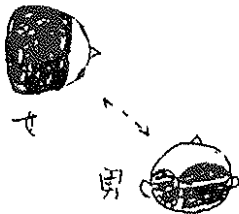


第4図 おたがいに親しみをを感じる相互位置

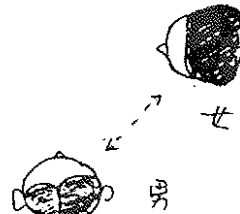


第5図 にらみあっているような感じ。距離を感じる。

(3) 男性と女性がおたがいに親しさ(気分的に楽な感じ)を感じる位置



第6図 おたがいに親しさを感じる。



第7図 にらみあっているような感じ。

2 上記3つの図より、これらの現象はつぎのようなばあい実用的に使えます。

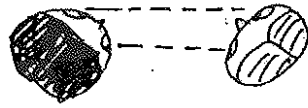
(1) 第2図、第4図、第6図の位置は a セールスマンが接客するとき b 企業や官庁で、部下をほめたり、またはやさしくしかるとき、c 上司を説得するとき。

(2) 第3図、第5図、第7図の位置は、a 企業や官庁で、部下をきつくしかるとき、b きらいな人で話をあきらめない方向へもっていきたいとき、などに使えます。

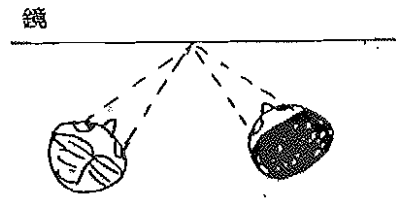
3 奇妙な現象

さて、今回のレポートでご報告したいことは、上記の、色目、流し目の実験を鏡に向ってやってみると、

それが、目の位置が逆になるという現象についてです。すなわち、鏡にむかって、男性と女性が第7図の実験をやると、相手にやさしき親しきを感じさせる目の方向が逆になります。上からみると第8図と第9図のような関係です。



第8図 親しきを感じる位置



第9図 鏡の中で親しきを感じる位置

第8図は鏡を経ずにおたがいの目をみたとき。第9図は鏡を経てみたときに親しきを感じる位置です。この図からみると第9図は第7図の、おたがいに親しきを感じる目の方向位置と逆になっています。

これを、同じように、自分自身の目を鏡の中で第9図に示すような方向に置いてみると、自分自身でもこの現象を確認できます。これとは逆に、第8図のようなときの目の位置は、人にみてもらわないとわかりません。

さらに、この現象の確認のために、感受性のよい複数の女性に、「自分の顔は鏡でみるとどちらの側が可愛く見えるか」のアンケートを求めたところ、左の顔を前にしたときの方、すなわち目を左の方へよせたときの方がよくみえるとの答を、いまのところ、例外なしに得ています。そういえば、新聞、雑誌の女性の写真は左前から撮ったものの方が多いことにお気づきになりませんか？私には、女性が自分の顔を研究するのに鏡という道具しかないことにその原因があるように思えます。

さて、以上の現象が何故「奇妙」であるかを説明してみます。

まず、第7図のような現象をなぜ感じるかはわかっていません。もし、外見上の左右の差であるならば、女性が目を右によせたときには、瞳孔が大きく開いているとか、目の形がかわっているとかの外見上の差があるはずだという仮説が立ちます。ところが、鏡で目をみると第9図で説明したように、女性が左に目をよせている方が可愛くみえるのです。すると上記の仮説がくずれます。

こうなると、鏡の上には、鏡像ではあるが右は右、左は左に対応して全く同じものが映っているはずであるにもかかわらず、そこから受ける感じは逆になってくる。ということは、先に立てた仮説は成り立たなくなるということです。したがって、色目、流し目の左右の差を感じるの、当方の認識する側の問題になるのではないかと？それで、つぎのように仮説を立ててみます。また、この仮説は、相手が女性であるか男性であるかを意識することによって、その色目の方向がかわってくるのではないかと、という仮説におきかえることもできます。

ところが、この仮説は、色目、流し目のかわゆさのちがいの実験を、まだ小さい、5、6才の女の子についてやったばあい、その方向は大人と同じようになるという結果が得られていますので、この仮説はくずれてしまいます。したがって、この色目の方向性は上記のような仮説と、従来われわれの認識の理論からだけでは説明しきれない奇妙な現象といわざるを得ないことになります。

そうすると、あと残るのは左旋性と右旋性の認識の問題と思われれます。左まわりのコマは鏡の中では右まわりに回っています。また、よく心理学の教科書に載っている鏡映像と真像の写真の比較は、自然界の写真についてはほとんど感じの差を与えません。しかし、鏡の中では色目、流し目の方向の差ははっきりと感じるのです。

すなわち、現実の世界、鏡の世界は立体の世界であり、写真は平面の世界であるというちがいがから考えると、その左旋性と右旋性の少しのちがいを認識する何等かのメカニズムがわれわれにはあるのではないかと？そういう仮説を立てるならこの奇妙な現象も説明できるのではないかとと思うのです。

追記：私は心理学者ではありませんので、このあたりの研究が現在どのくらい進んでいるのか、ご存知の方に教えていただきたく思っています。下記。

〒502 岐阜市長良宮路町 / の3 江崎通彦 (☎ 0582 31 9287) または ☎ 0583 82 5111 川崎重工
岐阜工場内 内線 3516

